

## 教育行政報告

最近の教育行政について報告いたします。

### ○ 児童生徒の学力の向上とたくましい心と体の育成について

今年度の新入学児童生徒数は、小学校4校で105名、中学校3校では160名で、児童生徒総数は、1,308名で昨年度より75名の減となっています。

学校教育の目標は、「夢をもち、心豊かで、元気な子どもの育成」とし、「よりよく生きるための基礎となる力」である知識・技能の確実な習得を土台としながら、応用・発展させる力となる「活かす力」を育む学校教育を引き続き推進して参ります。

また、主体的に学習に取り組む態度の向上に力を入れ、将来のにかほ市を担う人材の育成に取り組んで参ります。

そのために、一人一人の「問い」を大切にし、子ども同士で協働しながら課題を解決したり、学習の成果を活用したりする場面を設定するなど、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びを進めて参ります。

何よりも、学習のきっかけに「ワクワク感」「ドキドキ感」「はてなのマークが頭をよぎる」「楽しくて仕方ない」など、楽しく学ぶことを意識した教育活動を展開できるよう、教職員等が工夫と改善を進めます。

そして、「わかった」「できた」「もっと知りたい」という思いを高め、児童生徒のがんばりを認めていくことで自己肯定感、自己有用感の向上を図っていきます。

次に、1人1台タブレット端末のより効果的な活用と児童生徒の「情報活用能力」の育成を推進するため、GIGAスクール構想推進モデル校を核とした研修を充実させ、ICT支援員、ICTマイスターと連携を図り、日常的なICT活用と情報モラル教育の推進を進めて参ります。

また、仁賀保高等学校やTDK歴史みらい館などの関係機関と連携しながら、プログラミング教育の実践を重ねて参ります。

さらに、本市は、独自に学校指導に卓越した教育指導員のほか外国語活動支援員を任用し、各校のニーズに応じて派遣しております。小・中学校の算数・数学、理科及び小学校外国語、中学校英語の充実を図るため、教科担当とのチームティーチングを通した児童生徒への指導はもちろん、教師の授業づくりへの助言等、学力向上に向けた取組として十分に力を発揮しているところであります。

続いて、「にかほ地域学」については、保護者や地域住民の力を学校教育に取り込む「コミュニティ・スクール」の機能を活用しながら、ふるさとの自然や歴史、伝統文化、産業等を活かした「学び」を充実させることで、地域とともにある学校の更なる充実に努め、ふるさとに関わる教育を推進して参ります。

最後に、困り感のある児童生徒については、各小中学校に学校生活・学習生活サポート支援員を配置し、支援を必要とする児童生徒に適切に寄り添い、落ち着いた学校生活を送ることができるよう、担任と緊密な連携をとって、相談・支援をしながらサポートしております。

さらに、不登校児童生徒に対応するため、教育支援センター「ばすてる」を昨年5月より開設しております。教員免許を有した相談員3名が、登校に不安を抱えている児童生徒に対応して新たな学習の場を提供しており、「ありのままの君を受け入れる新たなかたち」をキャッチフレーズに、今後も、人との関わりや学ぶ楽しさを知る活動を通して、一人一人の心の不安を軽くし、社会的自立を支援して参ります。

## ○ 小中学生へのクマよけ鈴等の貸与について

県による「ツキノワグマ出没警報」が発令されている中、6月1日に温泉保養センター「はまなす」でクマが出没し、従業員が軽傷を負う事案がありました。また、5月25日にはプレステージインターナショナル・にかほランチ付近での目撃情報が寄せられ、仁賀保中学校では、校地に近く、通学路沿線付近であることから、部活動等の屋外活動を中止するとともに、週明け月曜日の登下校については保護者による送迎をお願いするなど生徒の安全確保に努めたところであります。

このほかにも複数の目撃情報が寄せられており、こうした事態は、登下校のみならず校外での学習活動においても不安が伴うことから、児童生徒の身の安

全と安心の確保ができるよう、クマ出没に対応するマニュアルの整備を進めております。

また、緊急的な対処として、市内すべての児童生徒にクマよけ鈴を貸与するほか、小中学校にはクマ撃退用スプレーの配布を予備費により措置しております。

## ○ 児童生徒による各種大会等の結果について

4月20日と21日に開催された本荘由利中学校春季大会では、仁賀保中学校が剣道の女子団体で準優勝、そして、女子個人では優勝と準優勝を収めています。また、ソフトテニスで男子団体が準優勝しています。

金浦中学校では、柔道の60kg級で第1位のほか50kg級、60kg級、66kg級、81kg級が第2位となっています。

象潟中学校では、ソフトボールが西目・本荘北・矢島・本荘東との合同チームで準優勝、女子ソフトテニス団体が準優勝しております。

また、5月23日に行われた本荘由利中学校陸上競技大会では、仁賀保中学校の女子総合と学校総合で見事優勝に輝いております。個人種目では、象潟中学校が5種目で、仁賀保中学校が4種目で、金浦中学校が1種目でそれぞれ第1位と、優れた成績を収めております。

## ○ にかほ市学校環境適正化基本計画について

令和5年10月にまとめた「にかほ市学校環境適正化基本計画（案）及び小中学校再編案」について、令和5年11月と令和6年1月に市内各地域において計7回開催した意見交換会の参加者は64人でありました。その後、2月にパブリックコメントを実施し、2名からのご意見に対して、教育委員会の考え方を回答しております。市民の皆様にはこのような形で計画案の周知に努め、意見聴取の機会を設けて参りました。4月の教育委員会において計画案が承認されたことにより、「にかほ市学校環境適正化基本計画」の策定となりました。

計画の概要は、計画期間を令和5年度から令和15年度までの10年間とし、令和10年度までの5ヵ年を前期計画として小学校の適正化を、その後令和15年度までの5ヵ年を後期計画として中学校の適正化をそれぞれ図るとともに、出生数や児童生徒数の状況、環境の変化を踏まえた計画の見直しを行います。

小学校については、地域への影響の大きさを考慮して、旧町単位で1校を存

続させることとし、平沢小学校と院内小学校の統合を図ります。現在の平沢小学校を統合校舎として、令和 10 年 4 月の統合を目指し、今年度中に学校統合準備委員会（仮称）を設け、各種の準備・調整を進めて参ります。

中学校については、現 3 中学校を 1 つの中学校に統合・再編するものとし、その時期については令和 14 年 4 月を目標としております。統合校舎の位置は、今後の人口や生徒数、通学距離とその手段、周辺施設の状況などの実状把握や分析をするなど、多方面から多角的な視点をもって判断する必要があるため、現時点では示さず、令和 9 年度までに決定することとしております。学校再編に関するスケジュールについては、統合準備委員会（仮称）による準備の進捗状況等に応じ、調整を図ることも想定しております。

今後におきましても、本計画を広く周知し、理解を深めていただく機会を設けて参ります。

#### ○ 第 40 回奥の細道象潟全国俳句大会について

「奥の細道象潟全国俳句大会」は、本年で 40 回目を迎えます。8 月 3 日に記念大会として、九十九島と蛸満寺を会場に吟行句会を開催するほか、象潟公民館を会場に、子どもの部及び一般の部の表彰式並びに俳人協会評議員の岸本 尚毅（きしもと・なおき）氏を講師に迎え、講演会を開催いたします。

松尾芭蕉の奥の細道紀行の目的地の一つであった「象潟」を市内外に P R し、交流人口の拡大を図るとともに、小・中学生の俳句への関心を高めて参ります。

#### ○ フェライト子ども科学館「入館者 1 1 0 万人達成」について

5 月 3 日、フェライト子ども科学館の入館者が 110 万人を突破しました。平成 10 年 10 月の開館以来、26 年目での記念すべき 110 万人目となった、秋田市の小学 3 年生、金森心大朗（かなもり・こたろう）君には、記念品として地球儀を贈っております。

フェライト子ども科学館は、昨年度、開館 25 周年を迎え、磁力をテーマにした 2 つの新たなアトラクションを導入するなどリニューアルし、来館者も順調に推移しております。今後も、市内外の多くの方々から科学の不思議に触れ、興味をもって頂けるよう努めて参ります。

## ○ 白瀬南極探検隊記念館「オーロラドーム」映像リニューアルについて

「オーロラドーム」で上映している映像を 14 年ぶりにリニューアルいたしました。市と連携協定を締結している国立極地研究所の全面協力のもと、「オーロラのふしぎ」「南極の自然といきもの」の 2 種類を制作し、オーロラが発生する仕組みや、南極に自生する植物、湖にスポットを当てた内容となっております。

5 月には、66 年ぶりに秋田の地でもオーロラが観測され話題となりました。館内には仁賀保高原で撮影されたオーロラの写真パネルも展示しております。この映像リニューアルをホームページや SNS 等で市内外に幅広く周知を図り、当館の知名度向上と更に魅力ある施設づくりに努めて参ります。

## ○ 象潟郷土資料館企画展について

6 月 8 日より『『おくのほそ道』最北の地・象潟』と題して企画展を開催しております。松尾芭蕉生誕 380 年の年にあたる今回の企画展は、芭蕉が訪れた象潟はどんな風景だったのか、芭蕉が訪れたことで、その後の象潟にどんな影響を与えてきたのかを紹介しております。来年 5 月 25 日までの展示期間としております。

また、池田修三作品展も開催しており、「L o o k (ルック) -まなざし-」と題し、モノクロから多色刷りへの変遷とともに、表情の表現の変化をお楽しみいただける作品を展示しております。

さらに、池田修三作品集「ものがたり 池田修三の木版画の世界」が大好評につき完売となっておりますが、お客さまからの熱い要望を受け、4 月 27 日から販売を再開しているほか、秋田県立図書館を会場に 6 月 23 日まで池田修三作品の出張展示を開催しております。

今後も市内外において幅広い事業展開を継続して実施し、誘客促進を図るとともに本市 PR に繋げて参ります。